

ひと街しごと

平成15年(2003)9月(年4回発行)
発行:(社)印刷紙工
札幌市中央区南15条西18丁目
Tel(011)561-3597

編集:ひと街しごと刊行会
札幌市中央区北1条西17丁目
北海道不動産会館4階
(有)編集工房海内 Tel(011)623-6652

No. 5



きょうはどいまで 行ったやら...

歴史はいつも未来へのみちしるべです。
世の中の進むスピードと自分の生きていくベースが、
少し合わなくなってきたと感じ始めたら、
思い出カードを一枚一枚めくっていきましょう。



下
駄占い



ト
ンボ捕り



糸
電話



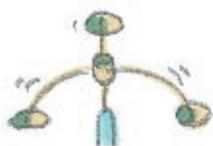
ケ
ンパ



お
手玉



とんぼ釣り、きょうはどこまで
行ったやら——まったくくしょう
がない子だという、親の気持ちで
しょうか。世の中のものんびりして
いたものです。でもこの放つたら
かしが、子供たちを遊びの天才に
したのかもしれない。インター
ネットで天気予報をすぐ見られる
時代に、下駄で天気占いもあった
ものではありませんね。



思い出 カード

遊び編②



中島体育センター別館



中島公園（札幌市中央区）

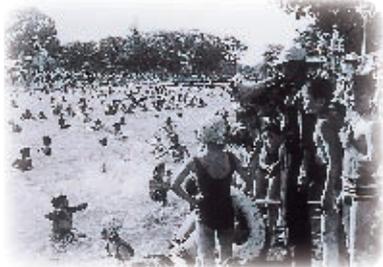
野球も、プロレスも——
スポーツのメッカだった

公園にも歴史がある——当たり前のことなのですが、その性格まで変わってしまうと、散策していても味気なくなるようです。文化施設が中心となった現在の中島公園に、かつての札幌のスポーツのメッカだった頃の面影はほとんどありません。野球場の歓声も、スポーツセンターの熱気も、一体どこへ行った……。



中島球場も冬はスケートリンクに
(写真上4枚はいずれも札幌市写真ライブラリー提供)

中島プール



もなつかしい思い出。球場の南側に中島スポーツセンターが完成したのは昭和二十九年（一九五四年）のとき。以

最近、中島公園に行きましたか。これから足を運ぶとすればどんな目的になりそうですか——。こんな質問を札幌市民に試みるとすると、キタラのコンサートか、北海道文学館の特別展かぐらいの答しか返ってこないかもしれません。

明治二十年（一八八七）頃から本格的な整備が始まったという中島公園が、札幌のスポーツ施設の一大集積地としての役割を果たしてきたことは、もはや忘れられがちです。

大正七年（一九一八）にバックネットとベンチだけでスタート、昭和二十四年（一九四九）にスタンドが完成した中島球場。同五十五年（一九八〇）、北区の麻生球場にその役を譲るまで、アマチュア野球のひのき舞台でした。冬はスケートリンクがつくられ、終日賑わったのもなつかしい思い出。

コンサートホール・キタラ



来、スポーツ大会はもちろん、コンサートや相撲、プロレス興行などにご利用されてきました。同五十五年、西側に

現中島体育センターが完成し、名称も中島体育センター別館と替わった頃から、市民との距離ができたでしょう。こちらも平成十二年（二〇〇〇）、豊平区に道立総合体育センター（きたえーる）が出来て、取り壊されました。

さらに伊夜日子神社をはさんでスポーツセンターの南側にあったのが中島プール。現在の公園管理事務所一帯です。昭和四年（一九二九）から平成八年（一九九六）まで、中島公園のスポーツ施設の中で最長の歴史を刻みました。そして冬のスポーツ博物館も大倉山ジャンプエのウインタースポーツミュージアムに。

こうしてみると、かつて中島公園一帯にあふれていた、スポーツをめぐる人々の熱気と歓声は、じつは札幌市のエネルギーそのものだったような気がします。新設されたいずれの施設も大規模で最新の機能を備えています。中島公園内にはまだまだ時間がかかるのではないのでしょうか。

※参考文献／さっぽろ文庫84「中島公園」

来た道、 行く道。

様々な先達がいるからこそ
二十一世紀があるんだよ——
スローコミュニケーションを求めて。

昔 なつかしい菓子が複製されて
は人気を呼ぶご時世ですが、
「どりこの」と聞いてどんなもの
だったかすぐわかる人は、昭和ヒト
ケタ生まれの年代まででしょうか。

どりこのとは、講談社の前身で
ある大日本雄弁会講談社が昭和六年
(一九三二)から同十九年(一九四四)
にかけて全国で販売した滋養飲料の

南澤常雄さん——
青別市 南澤菓子舗



が、戦時下の砂
糖統制、終戦を
経て幻の飲料に
なってしまうま
した。

幻の飲料「どりこの」 饅頭に名を残し 郷土の代表銘菓に

前置きが長く
なりました。戦
後間もなく芦
別市内の薬局
でこのどりこの
を見つけ、饅頭
に練り込むこと
を考えついたの

こと。奇妙な名前は、開発者の高橋
孝太郎博士ら三人のイニシャルを組
み合わせたものです。
甘いものが不足した時代だっただ
けに爆発的な売れ行きとなりました



J R札幌駅のキオスクでも販売



が南澤菓子舗の創業者、南澤謙治さ
んです。もともと飴職人だった謙治
さんは福島県出身。富良野の親戚
の菓子屋を頼って来道し、大正元年
(一九一三)芦別で店を構えました。

どりこのが底をつくのには時間がか
かりませんでした。しかし二代目の
徹さんが、初代の考案した白あんを
黄身あんに変え、カステラ饅頭の生
地で包んだ現在のものが芦別みやげ
の代表格となりました。

そしてこの春、八十五歳で亡く
なった父、徹さんの後を継いだ三代
目の常雄さん(五三)。東京の専門学
校で学んだ洋菓子づくりの技術を生
かして、洋菓子やパンなども店頭に
たくさん並んでいます。といっても

「午前中は和洋菓子とパンづくり。
午後はどりこのづくりだけ」(常雄
さん)というほど、メインはやはり
どりこの饅頭。奥さんと弟さん夫婦
の四人で店を切り盛りしています。
芦別に帰省した人は帰りに必ず
といつてよいほど求めていくそう

すし、全国各地から「なつかしい」
という手紙も。常雄さんは「これか
らもどりこのに限らず、菓子でもパ
ンでも昔ながらの味を守っていきた
い」と、三代目を継いだばかりの抱
負を語ります。(青別市南一西二)

※参考文献／「月刊現代」講談社〇二年九月号

本欄への自薦、他薦をお待ちしております。

(当時は行政資料室)の北海タイムスのマイク
ロフィルムで見つけました。なつかしいと同
時に、こんなところで役に立っているとは
と、ある種「編集者冥利」も感じた次第です。

ひるがえって企業や団体、業界の歩み、
歴史をつづった本も、広く読まれることで
社会的な役割を果たしているといえないで
しょうか。興味のある人、参考にしたい人
は限られるかもしれませんが、同記念誌の
ように、必要な人には得難い文献として役
に立つこともあるということです。

とどまるところを知らない社会のあらゆる
場面でのハイテク化(効率化)。意識して
ローテク時代を記録していかなければ、
気がつかぬうちに人の手や顔は消えていく
ことでしょう。

そしてそれは自分自身についても同様で
す。世の中から自分が取り残される前に、
自分は自分で生きた証をつづっておきたい
——それが自費出版です。

(ウミネコ)



“高速度滋養料”
どりこの新聞広告
(昭和8年の朝日新聞から)



団体史の社会性

24年前に編集した 本に出会って——。

本号「時を歩く」の中島公園について書
くの参考にした、さっぽろ文庫84「中
島公園」(1998刊)をめくっていたときの
ことです。

同公園施設ガイドのテニスコートの項
に、札幌庭球協会が昭和13年(1938)8
月、中島スポーツセンターの場所にテニス
コート3面を完成させたときのことが書い
てありました。

そこに引用されていた当時の三澤札幌市
長の始球式の新聞記事に目が止まり、巻末
の参考文献一覧を見ると、中に札幌庭球協
会四十周年記念誌が——。

じつは同記念誌は24年前、小社が編集
を行ったもの。その新聞記事は道立文書館

本・づ・く・り 相談室



Q 印刷会社にすべて まかせてよいか？

書きたいことが決まって、資料集めも原稿も何とかなるような気がします。でも自分の書いたものをそっくり印刷会社に渡して、後はおまかせというのもちょっと不安です。原稿をチェックしてくれる人はいるのでしょうか。

くれる立場の人、すなわち編集者がいるかどうかで、本の出来栄が大きく変わって来ることでもあります。文章、見出し、筋運び——編集者は、第三者の目で本全体を見るのです。

残念ながら、多くの印刷会社にはこの部門がなく、著者から預かった原稿をすぐ組版部門へと回しているのが現状です。

印刷会社を選ぶときには、社内外に編集者がいるのかどうか確認してから、一連のチェックも含めた作業を頼むのがよいでしょう。どんなにも限られた予算での本づくりですから、その費用も少額で済むはずですよ。

A できれば編集者の 文章チェックを

よいところに気付かれました。自分の本なのだからといって、何を書いてもよいというわけではありませんし、人が読んでくれそうにない文章や構成だったら出版する意味がないからです。

そこでこうした点に目を通して的確なアドバイスをして

ここで調べる 札幌市写真ライブラリー

懐かしい写真を 見る、借りる



市の古い写真。一体どこで見つけたのだろうと思っている人もいることでしょう。小紙でも何度かお世話になっており、本号では中島公園の写真を使わせてもらっています。

札幌市写真ライブラリーには、開拓使時代から現代までの札幌の歴史や風俗を物語る数多くの写真が収蔵

なつかしいなあ、こんな写真。よくあったね——最近、札幌市広報などでも見かけるようになった札幌

されており、原則として無料で閲覧・複写ができます。たとえば自分史のカット写真として、昭和二十年代の町並み（出来れば住んでいたあたりの）を使いたいというとき、それがあれば複写して本に使うことができます。

札幌市写真ライブラリー

所在地／札幌市中央区北二東四サッポロファクトリー

電話／二〇七—四四四四

出版ニュース



句集 寺の子

仙石弘人

(四六判 202ページ)

古希を迎えて、これまでに詠んだ句をまとめるこ

とにしたと後書きに。昭和六十年から平成十四年までの九百五十句が収められています。全編の基調は常に過去と死に向き合っているという印象。晩秋や写真の青春みな黄ばみ

いくばくの日月のこる秋夕焼

そして著者の来し方行く末への思いはこの一句に。

まなうらに故人あふれ来冬銀河

句集 返り花

正部家一夫

今年八十四歳。華牙主宰であり、北海道俳句協会

常任委員という著者にして初めての句集。タイトルは亡き妻にかかわる作品から取ったもの。「私の拙い俳人生の日誌の一端として、ご覧いただければ望外の喜びとするところである」。

風呂吹きのとろりと晩年のしくす

束縛のなき身に古りし藍浴衣

白芙蓉夕べの妻の声かとも

第4回「本づくりおしゃべり会」開催

気軽に本づくりに取り組んでいただくとうと、印刷紙工が昨年からおしゃべり会。その今年第一回の集まりが

去る八月二十三日、印刷紙工二階会議室で行われました(通算四回目)。参加したのは近隣からの市民十人。本づくりの費用、自分史の書き方などに、約一時間半にわたって耳を傾けていただきました。また終了後には工場内をご案内しました。



この会は年内にあと二回開く予定です。参加ご希望の方は印刷紙工までお問い合わせ下さい。

- 本作りの無料相談を承ります。印刷紙工(☎011-561-3597)または編集工房海(☎011-623-6652)までお問い合わせ下さい。
- 5人以上のお集まりで会場をご用意いただければ、日時等をご相談のうえ“出前・本づくりおしゃべり会”に参加します。
- 小紙をご希望の方には、定期的に無料でお送りします。印刷紙工までお申し込み下さい。



(四六判 224ページ)